国語科学習指導案

研修グループＢ

尾道市立向東中学校　成相　晴菜

庄原市立庄原中学校　山根　大輝

府中市立上下中学校　株本　留美

呉市立東畑中学校　神原　真美

１　日　時　令和６年10月18日（金）第３校時

２　学　年　第２学年１組　男子17名　女子19名　計36名

３　単元名　「平家物語～与一の『判断』から自分の『判断』の視点を探る～」

４　単元について

（１）単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第２学年〔思考力、判断力、表現力等〕のＣ読むこと（１）オ「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」を受けて設定している。

　自分の考えを広げたり深めたりするためには、関係する知識や経験を想起して列挙するのみでなく、それらと結び付けることによって、理解したことや考えたことを一層具体的で明確なものにしていくことが必要となる。その上で、他者の考えやその根拠、考えの道筋などを知り、自分の考えと対比しながら共感したり疑問をもったりすることが求められる。

　教材「平家物語～扇の的～」は、登場人物の言動や、多様な擬声語、色彩を豊かに用いた描写により、生徒が状況をイメージしやすくなっている。さらに、教材文の登場人物の「判断」のよりどころを捉えることで、登場人物と自分との共通点や相違点を基に、自分の考えを深めることができる。

このように、本単元の学習を通して、古典を読み、現代と異なる文化や今でも変わらない人間の在り方に触れ、生徒の知識や想像力を豊かにしていくことが期待できる。

（２）生徒観

省　略

（３）指導観

指導に当たっては、古典を読み取る知識及び技能の習得として、仮名遣いのルールをもう一度確認し、現代語訳で意味を理解して親しみをもって音読を行うことで、古典を読むことに対する抵抗をなくしていきたい。

「扇の的」の学習では、与一が矢を射る２つの場面を取り上げ、なぜ与一が扇の的や男を射る判断をしたのかについて、人物の言動や情景などを基に捉えさせるとともに、男を射る場面では、扇の的を射る場面の心情や情景と比較させて捉えさせたい。

さらに、「判断」をテーマとした並行読書を行うことで、様々な作品内に表現された登場人物が「なぜ、そのような判断をしたのか」について読み取らせたい。並行読書として取り扱う本は、読書が苦手な生徒にも親しみやすいよう、実写映画化した作品や、中学校の別の教科書に掲載されている作品かつ一般図書にもあるものを選んだ。授業で取り扱う作品以外にも、学校図書館に様々な時代、ジャンルの関連図書コーナーを設置するなど、生徒の読書活動に結び付けていく。

また、自身の経験や生き方を振り返り、実生活で興味関心を高めることにもつなげていき、「判断」することについて、試合の勝敗、仲間への思い、戦における敵味方など「判断」のよりどころとなるものに結び付け、考えを整理して書くことができるように、「この作品の中では何をよりどころとして登場人物は判断をしたのか（もしくはしなかったのか）」という視点で作品を読むように指導していく。

これらの指導を通して、現代の自分たちとの共通点や、相違点を見付け、「判断」が身近にあることに気付き、自分の知識や経験と結び付けて考えをまとめさせたい。

５　単元の目標

○　現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔知識及び技能〕（３）イ

○　文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。　　　　　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）オ

○　言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

６　単元の評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 与一と自分が選んで読んだ本における登場人物の「判断」を比較し、考えたことを伝え合うことを通した指導【言語活動例Ｃ（２） イ】 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。（（３）イ） | ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。（Ⅽ（１）オ） | ・古文を読んで考えたことを、進んで知識や経験と結び付けて自分の考えを広げたり深めたりし、学習課題に沿って、まとめようとしている。 |

<評価の具体及び手立て>

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 評価規準【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）】 | | 「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て |
| 思考・判断・表現 | 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 【問１】  　『扇の的』の与一と、『敦盛の最期』の熊谷直実の判断の「よりどころ」の違いについて説明しなさい。ただし、原文の描写を根拠として引用すること。  （例）  　『扇の的』の与一は、源氏の兵としての立場をよりどころとしている。源氏と平氏の兵が周りを囲んでいる状況で、「御定ぞ、つかまつれ」という義経の命令を受けているので*、*それに従う判断をした。  　一方、『敦盛の最期』の直実は、相手の気持ちを汲んであげたいという自分の思いを優先することをよりどころにしている。「ただ、とくとく首を取れ。」にあるように、敦盛は武士として死ぬことを望んでいるため、その気持ちを理解して判断したと思う。  　このように、自分の立場を優先するか、自分の思いを優先するかという判断のよりどころの違いがある。  【問２】  「判断」とはどういうものだと考えられるか。次の条件にしたがって書きなさい。  （条件）  ①　与一もしくは直実の判断、もしくは両方の判断にふれて書くこと。  ②　関連する自身の経験と結び付けて書くこと。  （例）  「判断」とは、複数ある選択肢の中から自分の中の最適解を見つけることだと思う。  直実は、敦盛を逃がすことも殺すこともできた状況で、他の者に殺されるくらいなら、自分が敦盛を殺して供養をすることが最適解と思い、この判断をした。  バスケの大会で、私達のチームは最後の第４ピリオド、残り３０秒を切って３点差で負けていた。その時、私はスリーポイントシュートを打って同点に追いつくしかないと思い、シュートを打ったが外れてしまった。その時は、それが最適だと思っていたけれど、あとから考えるとまずは仲間にパスするなど、他の選択肢があったのではないかと思う。  このことから、複数の視点をふまえた上で、最適解を見付けて行動していきたい。 | ・根拠の引用の仕方について、例を示し、実際に引用させる。  ・文章の構成を具体的に示す。  ・自身の経験だけではなく、見聞したことや今後想定されることを例としながら考えるよう促す。 |

７　指導と評価の計画（全11時間）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学　習　内　容 | 評　　　価 | | | |
| 知 | 思 | 主 | 評価規準・評価方法等 |
| 一 | １ | 〇単元の目標、活動内容を知り、学習の流れのイメージをもつ。  ○自分にとっての「判断」に対する考えをまとめる。  ○「平家物語」について知る。  ○冒頭を読み作品全体のテーマ（無常観）について考える。 |  |  |  |  |
| 二 | ２３ | ○「扇の的」の前半部分を読む。（Ｐ151～Ｐ153）  ○与一が扇を射る場面の状況を読み取る。  ○後半部分（Ｐ154～155）を読む。  ○与一が男を射る場面の状況を読み取る。 | ○ |  |  | 〔知識・技能〕  　ワークシート  ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方の発見 |
| 三 | ４ | ○「判断」とは、どのようなものか、自分の考えを書く。  ○男を射た時の与一の判断のよりどころについて、自分の考えを整理する。  （判断のよりどころとは、判断をする際の基準のことである） |  |  |  |  |
| ５  ６ | ○「卒業ホームラン」を読み、登場人物が「判断」する場面について、描写を基にその理由を考え、交流する。  ○選書リスト内から選んだ本を読み、同様に登場人物が「判断」する場面から、描写を基にその理由を考える。  ○同じ作品を読んだ別の生徒のワークシートを読み、他者と交流する。 |  |  |  | |  | | --- | | 〔思考・判断・表現〕  本時はＣ（１）エに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。 | |
| ７８９（本時） | ○「扇の的」と比べる作品を選ぶ。  ○読み比べた作品の登場人物がなぜそう「判断」したかについて、「扇の的」との共通点や相違点をまとめ、自分の考えを書く。同じ作品を選んだ生徒同士で交流する。  ○交流して新たに考えたことや気づきをワークシートに記入する。 |  |  | ○ | 〔主体的に学習に取り組む態度〕  ワークシート  ・登場人物の「判断」のよりどころについて、他者との交流を通して比較し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしているかを確認する。 |
| 四 | 10  11 | ○「敦盛の最期」を読む。  ○評価問題 |  | ○ |  |  |

８　本時の学習

（１）本時の目標

・登場人物の「判断」のよりどころについて他者との交流を通して比較し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

（２）学習の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 指導上の留意点  ・「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て | 評価規準  （評価方法） |
| １前時までの学習を振り返る。  ○読み比べた作品についての自分の考えを振り返る。  ２めあての確認 | めあて　交流をふまえて、「判断」に対する自分の考えを書く。 |  |
| ３同じ作品を選んだ生徒同士で「判断」について、自分の考えを交流する。 | ・自分が読み取った根拠を示しながら伝えられるように発表の型を示す。  ・自分の書いた文章との共通点や相違点に注目して交流し、気づいたことなどをワークシートにメモする。  ・同じ作品を選んだ生徒を４人程度のグループにし、相手がなぜそのように読み取ったか、自分が読み取れなかったこと、わからなかったことを質問してもよい。  ・質問力向上シートを活用し、お互いの内容について質問を通して深められるようにする。 |  |
| ４作品の読み比べや交流を通して考えた「判断」に対する自分の考えを書く。 | （ワークシート例）  ○他者との交流を通して比較したこと、考えたこと  ・　私は、彰のようにここぞというときには、自分の意見を貫き通して判断することが必要だと思っていましたが、Ａさんは「チームや団体で動いているときには、個人の思いだけで判断してはいけないこともある」と言っていました。それを聞いて、意見をしっかり伝えることは大切だけれど、個人の思いを押し通したり、勝手に決めたりするのは別なのだと思いました。判断とは、周りの思いや状況を踏まえながら選択するというものだと考えました。  ・　私は『扇の的』と『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』は個人の思いで判断するか、団体、チームとして判断するかで違いがあると思っていましたが、Ｂさんは「自分が生きるか、相手を生かすかで判断している」と言っていました。ここから、判断とは、自分のためか人のためか、を考えることに加えて、団体やチームのために道を選ぶということだと思います。  〔①②が書けたらＢ評価。③まで書けたらＡ評価〕  ①他者の意見と自分の意見を比較して共通点、もしくは相違点を書いている。  　②他者の意見から自分が考えたことをもとに、「判断とは何か」、自分の考えを書いている。  　③自分の具体的な体験を交えて①②を書いている。 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕  登場人物の「判断」のよりどころについて他者との交流を通して比較し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。（ワークシート） |

（３）板書計画

平家物語

めあて　「判断」に対する自分の考えを、交流をふまえて書く。

あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら

太平記

子馬

卒業ホームラン

発表の仕方

★私は「扇の的」と〇〇は～という共通点があると思います。なぜなら･･･（本文を引用して理由を述べる）。

★私は「扇の的」と〇〇は～という点で違いがあると思います。なぜなら･･･（本文を引用して理由を述べる）。

自分が比べ読みした作品にネームプレートを貼る。